

ダニ・カビに負けるな！

ハウスミカンの開花期までの必須防除

佐賀県果樹試験場 病害虫研究担当 近藤 知 弥

早期加温では今月の終わりごろから開花を迎えます。また、中期および後期加温ではこれから被覆、加温を迎えます。

ハウスミカンの開花期までの防除では、灰色かび病とミカンハダニが重要です。

特にミカンハダニはこの時期にハウス内にいない状態にすると、来年ハウスサイドを開放するまで防除をしなくてもよくなります。先手必勝で臨んでください。

灰色かび病対策

花びらが感染源

カンキツ灰色かび病菌はもともと元気の細胞への感染力は弱いいため、落弁期の感染は枯れかかった花びらで発病した胞子からの二次的な感染

だけです。

つまり、花びら（＝感染源）さえなくせば発病しないのです。そうならば薬剤防除をする必要もなくなりますので、「花びら落とし」は灰色かび病に対して非常に有効な防除法となります。

こまめにハウス内をまわって、枝を揺すって花びらを落とすようにしてください。特に花びらが白いうちは人が通って樹に触れただけでも簡単に落ちます。

花びら落とし（＋薬剤防除）で病気を断つ！

満開期から「花びら落とし」を徹底し、感染源の花びらを極力減らすだけで十分効果的です。

さらに、スミレックスくん煙顆粒 一〇g／一〇〇㎡または、ロブラー

ルくん煙剤二五／三三g／一〇〇㎡などを用いて防除を実施すると効果が高くなります。

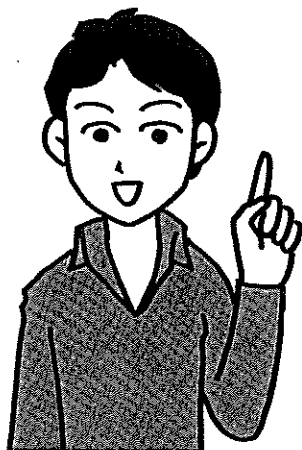
ハダニ対策

開花期までにミカンハダニを撲滅

先ほども述べましたように、被覆から加温時までのミカンハダニ対策はハウス内にミカンハダニがいない状態にすることが一番です。

この時期にミカンハダニが少しでも残ってしまうと、後々多発生して早い時期から殺ダニ剤を散布しなければならなくなります。

そうすると、大事な時期に使用できる殺ダニ剤がなくなったり、ミカンハダニの殺ダニ剤への感受性が低下して効果が低くなってしまうので、すでに場所によっては殺ダニ剤の



後になって苦しむより、事前の対策を徹底して、作業に余裕を持たせましょう。

第1表 2004年に佐賀県内地域ハウスから採集されたミカンハダニの各種殺ダニ剤に対する感受性

地域名	ほ場 No.	補正死亡率 (%)					
		コロマイト水和剤	パロックフロアブル	カネマイト水和剤	マイトコーネフロアブル	タイタロンフロアブル	ダニエモンフロアブル
		6,000倍	6,000倍	3,000倍	3,000倍	9,000倍	12,000倍
上場	1	○	○	○	×	×	○
小城	1	○	○	○	×	×	○
	2	×	×	×	×	×	×
神埼	1	○	○	○	○	○	○
	2	×	○	○	×	×	○
	3	○	○	○	×	○	○
浜玉	1	○	×	×	×	×	×
	2	×	×	×	×	×	×
鹿島	1	○	○	○	○	○	○
太良	1	○	○	○	○	○	○

効果が著しく低くなっているミカンハダニもいます(第一表、第二表)。手に負えなくなってしまう前に、きちんと防除してハウス内のミカンハダニを撲滅しましょう。

第2表 2005年に佐賀県内地域ハウスから採集されたミカンハダニの各種殺ダニ剤に対する感受性

地域名	ほ場 No.	補正死亡率 (%)					
		コロマイト水和剤	パロックフロアブル	カネマイト水和剤	マイトコーネフロアブル	オマイト水和剤	ダニエモンフロアブル
		6,000倍	6,000倍	3,000倍	3,000倍	2,250倍	12,000倍
神埼	1	○	○	○	○	○	○
	2	○	×	○	×	○	○
浜玉	1	○	×	×	×	○	×
	2	×	×	×	×	○	×
太良	1	○	×	○	○	—	○

残さない・持ちこまない・持ち込ませない

注1) —は未調査

注2) 補正死亡率が80%以上で感受性が高いものを○、80%以下で低いものを×

被覆までに一ヶ月以上あるハウスではマシン油乳剤九七%二〇〇倍をかけムラのないように丁寧に散布してください。

ただし、樹勢が低下している場合はマシン油乳剤の散布は控えてパノコン乳剤一、〇〇〇倍で対応しますが、散布時のミカンハダニの密度が高い場合は効果が低くなる場合がありますので少発生時に散布します。被覆時期のハウスでは被覆直前または直後にオマイト水和剤七五〇倍、モレスタン水和剤一、〇〇〇倍または、コロマイト水和剤二、〇〇〇倍のいずれかを使用します。

薬剤は昨年度の散布暦を参考に選択してください。

もし、コロマイト水和剤の散布後すぐにミカンハダニの密度が回復してくるようであれば、感受性の低下が考えられますので他剤で対応します。特にオマイト水和剤は感受性の低下しているミカンハダニにも効果が高いです(第二表)。

もちろん、かけムラがないよう十分量(七〇〇ℓ/一〇a)を散布してください。

ノズルはディスクノズルを使用し、葉裏まできちんとかけましょう。